

MEXCBTを活用した地方学調等の実施について

文部科学省 総合教育政策局 教育DX推進室



MEXCBTを活用した地方学調実施の背景・メリット

背景

- 現在、約900の地方自治体において独自の学力調査等が実施されているところ、ほぼ全てPBTでの実施である。
- 学力調査等のCBT化に関心が高まっているところ、地方自治体ごとに別々のシステム・データ形式等になると、ノウハウや知見が散逸してしまうこと等が想定される。
- CBT化のメリットを最大限にするためには、国・自治体での知見の共有を可能にすることが効果的。

 地方学調等においてMEXCBTを活用することを推進

メリット

① 手軽に先端的なシステムを利用可能

- ✓ MEXCBTという国単位の共通基盤を利用することで、自治体は手軽に国際標準の先端的で質が高くセキュリティの高いシステムの活用が可能となる。

② 低コストでシステムの利用が可能

- ✓ 地方自治体ごとにCBTシステムを開発・維持するよりも、低コストでのCBT調査の実施が可能。
 - 問題のサーバー上の保存（アイテムバンク）、実施（に係る監督機能）、回答結果のサーバーへの保存、回答結果の取り出し等を地方学調において活用することは無償
 - 現在開発中の、記述式採点機能や、CBTに基づく能力測定機能、アダプティブ機能などMEXCBTに追加する機能の活用についても無償の予定

※地方学調の実施において、MEXCBT以外で追加的に必要となるシステムや機能については、自治体の負担（例：独自の分析、フィードバックなど）

③ 正確なアセスメント

- ✓ 児童生徒が使い慣れているMEXCBTで学力調査を実施することで、年に1回だけのために独自にCBTシステムを構築する場合に比べて、システムの操作の習熟度の左右されない正確なアセスメントが可能となる

④ 作問やデータ分析ノウハウの共有

- ✓ 質の高い問題の活用や、同じ問題に関する正答率等のデータを全国規模で活用することで、1つの自治体だけではできない効果的な指導法等の知見の創出や共有が可能。

地方自治体の学力調査等のCBT化検討研究会

概要

地方学調等における作問や効果的なデータ分析等のノウハウの共有を行うことを目的として「地方自治体の学力調査等のCBT化検討研究会」を令和3年11月に設置。

GIGA スクール構想を踏まえ、地方学調等の測定・アセスメントのCBT化に関心を持つ地方自治体が増加していることから、現在までに約530の自治体から参加登録があり、全10回にわたり開催情報共有・意見交換等を行っている。

内容

MEXCBTを用いた地方学調等のCBT化に向けた各自治体の取組状況・課題の共有をすることにより、自治体間で連携・協働できる部分の検討を行う。

- 先行自治体による情報共有
実施に至った動機、具体的な調査内容や方法、実施後に感じたメリット・デメリット等を共有することで、共通課題の整理に繋げる。
- 文科省による情報共有
共通課題を整理し、各自治体が取るべき対応について情報共有を行う。
その際、検討段階に応じたノウハウをまとめることで幅広い自治体における理解促進を図る。

CBT (Computer Based Testing) 化のメリット①

1. 調査問題の充実・多様化

○ CBTの特性を活かして以下のような出題が可能
・児童生徒の意欲をより引き出せるような出題
・「思考力」や「問題発見・解決能力」といった能力の測定ができるような出題
・実際の学習場面に即した出題

(具体例)
① 調査問題の多様性：動画や音声等、豊富なメディアを利用
② 解答方法の多様性：図表の該当箇所を選択する、文章の該当箇所に下線を引く等
③ 児童生徒と調査問題の双方向性：解答内容に対してフィードバックを行い、児童生徒の試行錯誤を促す等

初級編 CBTの概要・メリット

MEXCBTを活用した地方自治体学力調査「⑥採点」方法の整理（令和4年度）

⑥ 採点方法

- MEXCBTでは、選択式や短答式の問題については、基本的に自動採点が可能
- 記述式問題の採点方法については、学校や自治体において採点可能なほか、事業者へ委託することも可能
- そのほか、自動採点に対応した問題のみで構成することで、記述式問題の採点方法を考慮することなく、地方学調を実施することも可能

	(1) 教員等が記述式採点システムで実施	(2) 自動採点対応問題のみで問題を構成する	(3) 自治体委託事業者が実施
自治体費用負担	あり	なし	あり
採点作業負担	記述式の問題に対して、各学校の教員や自治体委託事業者が採点作業を行う必要があり、採点作業負担が大きい。	採点不要	記述式の問題に対して、採点作業負担が大きい。採点作業負担が大きい。
採点に関する課題	自治体委託業者や教員への委託費	児童生徒の採点結果の信頼性	自治体委託事業者との関係性
備考	MEXCBTの記述式採点システムについては、第7回の地方学調発表会で詳しく発表済み。	記述式の問題は採点不可	

中級編 調査実施の流れ

7. 記述式手動採点 : 記述式手動採点システム

教員は、記述式手動採点システムから自分の児童生徒の答案を採点します。本システムは地方学調等の一定規模の調査を実施し、各学校の教員等が採点する場合に使用することを想定したシステムです。採点時には誰の解答かは分からないので、日課の小テストや定期テスト等での利用には向きません。

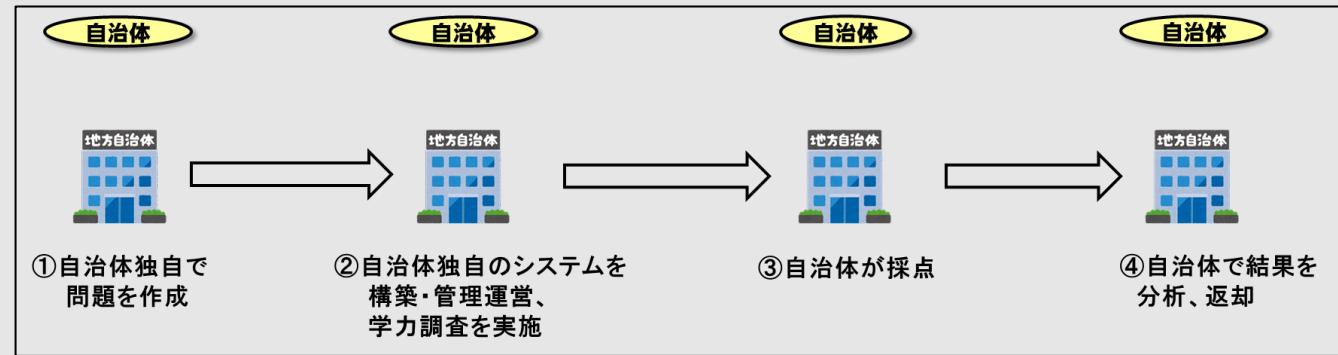
1. 類型設定
・採点者が、自校の児童生徒の答案を採点します。
2. 採点対象データの取得・採点
・採点者が、自校の児童生徒の答案を採点します。
3. 承認・差戻
・採点者が、採点結果を確認し、承認・または差戻しを行います。
3. 結果ダウンロード
・結果データダウンロードから、結果データのCSVダウンロードが可能です。

上級編 利用可能なシステムの仕様・利用方法

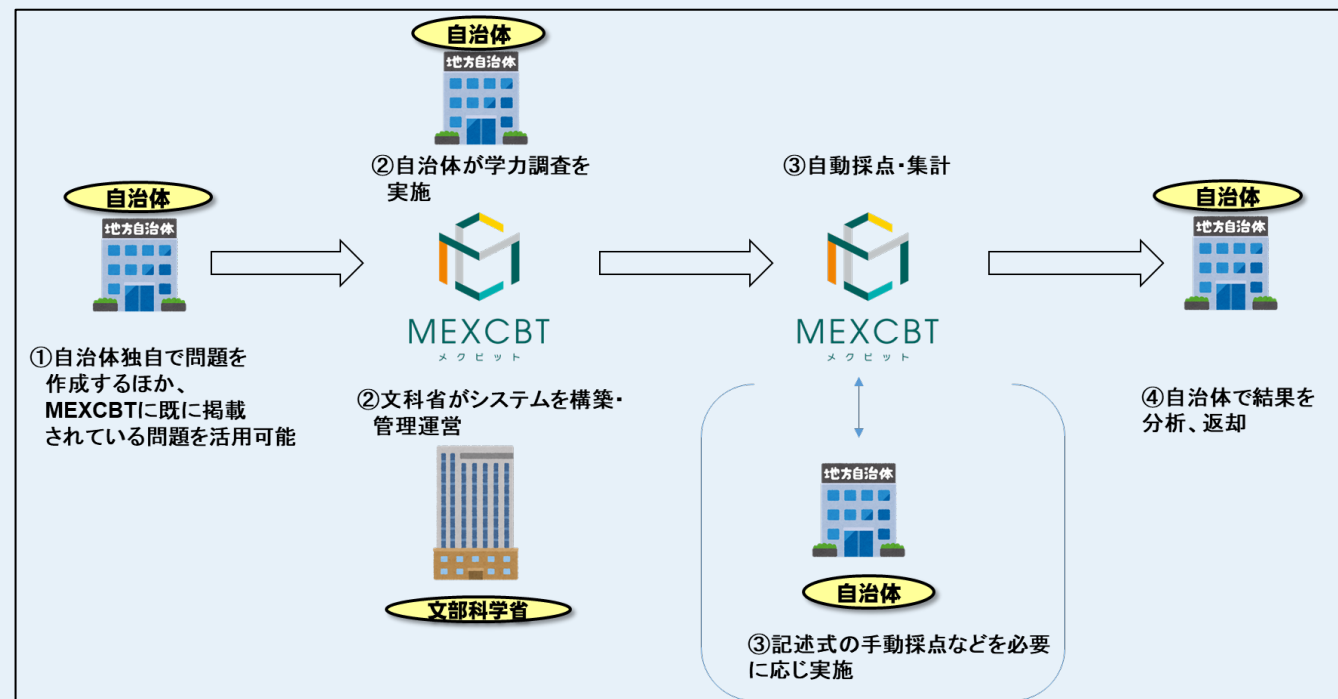
MEXCBTを活用した地方自治体学力調査の実施イメージ

地方学調等の実施においてMEXCBTを活用することで、独自にCBTシステムを構築する場合に比べて、各自治体の負担軽減にも資するほか、自治体間のノウハウの蓄積・共有に繋がる。

自治体独自でCBTシステムを構築する場合



MEXCBTを活用する場合



令和4年度は4つの都道府県・3つの市町村で実施・試行される（北海道、岡山県、福岡県春日市等）。5年度に向けては約6つの都道府県・約6つの市町村で具体的に準備が進められている。